

会 議 録

件 名	紀見東中学校区地域説明会・意見交換会（第2回）
日 時	令和7年2月13日（木）午後7時00分から午後9時15分まで
場 所	教育文化会館3階第1研修室
参加者	参加者 23名 今田教育長、田中委員、簗下委員、中下委員、岡教育部長、阪口参事、丸山教育総務課長、東学校再編推進係長、東川、中山

教育長挨拶、資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。

なお、出席した保護者には、資料と合わせて、意見等を記入できる二次元コードを用意しました。欠席した保護者にも二次元コードにて、資料を閲覧、意見等を記入できるよう準備しました。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1－1. 率直に申し上げますけども不信感と懸念事項、今日は気持ちを抑えながらですけど言わせてもらいます。まず1点、区長としてですけど、私、6年4月から区長させてもらって、もうすぐ終わるんですけど、5月・6月ですかね、部長来ていただいて説明してくださったんですけど、今回の説明も非常に重要な変更を加えての説明会だったと思うんですけども、どうして区長会に説明これなかったんですか。まずその1点、区長会には何の説明もなかったって聞いてますけども。非常に大切な話なので、区長には、こんな言い方は非常に失礼ですけど、ささいなことでも私どもの電話が鳴るんですよ、市の各局から相談に。そのたびに区長が時間さいてるわけです。区長会も月1回、土曜日の夜集まって紀見地区、他の地区もそうでしょうけど、集まってしてるんです。どうしてこういった内容を区長まで告げてくれなかったのかなと、私も他の区長さんも皆さん全員が興味持っているか知りませんが、まずその1点答えてください。

（教育委員会）

ご意見ありがとうございます。今回の2回目の説明会でこう変えたいという趣旨を、区長理事会で説明をさせていただいて、第1回目と同様に保護者説明会と地域説明会を開催させていただくということで説明にあがりました。今回、大きな変更点が各中学校区であったんですけども、地域説明会2回目させてもらうということで、今日の場に至っているということでご理解いただきたいと思います。

1－2. わかりますけども、該当する区長が月1集ってるんで、区長には話をすべきやったんじゃないのかなと。我々含めて、他の区長も自治会のことに対して、本当に皆さんボランティアで時間割いてるはるんです。本当に頭下がることだと思うんですよ。お互いが協力

して市政をやることだと思うんでね。そこがもうすでにちょっと、せつかく5月に来ていただけに、その時には部長のお話の熱意も伝わったから、私は非常に中立の小峰台としてですよ、中立の立場でいてたのに、せつかく1回目のときにしてくださったのに、どうしてこの2回目というところが、ちょっと非常に残念で、議員さんにはないんですかと何回か聞いたんですけどね。ちょっとその辺が非常に残念でしたね。

あと、これは個人としてなんですけども、バスの件がやっぱり、その辺りでしか落としかどろがないんじゃないかなと思うんです。バスの便数を検討されるとか、その具体的な本数とか詳細の詰めはこれからなんだと思うんですけども、まずは、暫定的経過措置じゃなくて、これから先、小峰台も学校回りとかも家建って、私も含め新しく建って、新しい世帯の方も少しながらも入ってきてはるんです。そういった方々のために、境原小と思ってたのにとかってわかりませんけどね、これから先も再編は致し方ないことだったとしても、やっぱりバスのことは、保護者さんの負担を絡めて保障していただきたい。それはもう小峰台区として、そして小峰台の下の方、橋の手前ですよ。喫茶店のところの方から城山小まで、そこまで距離にしたらないんかもしれませんが、全部乗れるんですよ。

(教育委員会)

これからバスのことについて議論していくんですけども、今は暫定的なことしか申し上げられないんですけど、概ね2キロと書かせてもらってるのは、本当に直線で学校から家の前までを測るのではなく、例えば、字とかの単位で、概ね2キロがあればご利用いただきたいという考えを持っています。おっしゃったように、城山台までは細川橋があるんですけど、あそこはどうしても加速するところなんです。前の信号青でしたら、だすくせがどうしても出てくるので、北側のラバーポールだけでしたら、もし子供たちがバランス崩したときに危険性を感じますので、そういったことを踏まえますと、例えばですけども、2区間であってもバスの利用をしてもらう考えを持っています。こういったところを順番に詰めていきたいと思います。

1－3. ありがとうございます。小峰台の子供たちがどこに住んでも小峰台である以上は、当然、境原の子供らも一緒やと思いますけども、再編される子供たちが、本当に取り残されることのないように、その子たちのことをファーストで考えていただきたいと思っています。バスの本数とかは具体的なことだと思うんですけども、私、隅田小学校区だったんですけども、その頃は3便ぐらい、おおよそで用意してくださってたんですね。やっぱり3便ぐらいは早いと普通の時間と遅いぐらいの3便ぐらいは欲しいなと、ちょっとお願いしときます。そして、あともう1点。個人の意見なんですけど、再編前の学校選択ですね。これもこちらは原則できないと、言いたくなるのはわかりますよ。それと当然だと思います、行政ですからね。それをうやむやにしてたら、再編の年度はかっこつかないし、行政としてそこがぶれるわけにはいかないと思うんで、そう言うのもわかります。非常によくわかります。しかしながら、やはり、先ほどからおっしゃってた紀ノ光台校区の変更とは、これもう別物

ではないですよ。平行なもんじゃなくて、やはり同じ世界間にある同一の直線上に乗っかってる問題ですよ。当然。私の近所の方に、同じ世代の人に聞いてみたんです。もし紀ノ光台が境原小学校にこられなくなった、変更になってね、それは紀ノ光台はバスに乗せてもらえるとなると紀ノ光台は隅田小でいいとなりますよ。絶対に、絶対ほぼ当確でね。

現に隅田校区ですからね、そうなったら別に境原小に来たいと強く思う子の方が少ないと思うんですね。そうなったら、紀ノ光台の子が境原小に来ないんだったら、もう従来の小峰台と細川と境原と杉尾となったら非常に少ないですよ、児童数がとなったら。そんなこというたら失礼ですけどね。数名になって境原小に通わせたいですかと聞いたんですね。そしたら皆さん、それはちょっとって、そんなとこまで思って小峰台に来てないんです。紀ノ光台があってあの人数が1クラスがあって、2、30人おるからと思ってたと言うわけですよ。それが数名というところまでは想定してないわけですよ。私もそうやったんです。ですんで、やっぱり平行なもんではなく、同じ同質の問題だと思うんですね、紀ノ光台のことについてはね。だから、別物と考えてはると、ずっとその問題が交わることのないところに来ると思うんでね、それは隅田小のことも関係あるんでしょうし、城山小のことも関係があると思うんですけど。そうなって再編されて、バス乗るとなったら、紀ノ光台のところも、どんどん隅田小に流れていくことが予想されますよね。そしたら境原小は14年までといって、どんどん少なくなって来ますよね。原則認めないと言っても今年の1年生も早々に転校したと聞いてますよ。となったら、教育委員会はノーとは言えないんでしょう。でしたら、少なくなってきてるところに、数少なくなったところに、小峰台の子だけで授業するかって話なんです。だからその辺が、ちょうど私の娘がドンピシャのところ当たるんで、ちょっと熱くなってしまいうんですけど、もう少しフレキシブルにその辺は認めてあげないと。意向聞いて、1人2人でもって言うのなら仕方ないんじゃないですかね。城山小に行きたいと言うたら、それも城山小に行かしてあげないと。そこを線引きとしてこんな書き方で1年前だけはとされると、非常にその辺はちょっと不信感が残ります。今日人数も少ないですし、先日のPTAのでも少なかったと聞いてます。それは、だって5年後にしたら今の1年生が卒業できる話ですから、もう関係ないかと思う人ばかりですよ。そやけど、関係するのは、これ未就学児の保育園行ってる子だってことになってくると思うんで、その人がそこまで今、シリアスに考えてるかどうかわからないと思うんです。当事者だけの今の在校生だけが温度下がって、説明会の方へは、うちは卒業できるからしらんよ。影ながら応援してるわとおしまいですよ。それはもう非常に、私はここはもうちょっと心配というか個人としてですよ、思いますんでね。ここはもう少し本当に詰めていただきたい。前も言いましたけど、古沢小学校は1人まで意見聞いて、こういう中でも卒業するんだったら僕行くって、6年生まで卒業させたと聞いてますよ。それぐらいの気概を見せて欲しい。やっぱりそれは、もう紀ノ光台どうするところまでめさせてしまったんですから、決は取ってあげないと示しはつかないんじゃないかなと思います。もう答弁は結構です。気持ちだけ取ってください。

(教育委員会)

ありがとうございます。思い伝わってきます。ちょっとだけ私も話をさせてください。学校の選択のことですが、24 ページに画面で示させている 1 つの例として示させてもらっているんですけど、この紀ノ光台地区のことにつきましては、別の 30 ページに、こういった文字だけでつづっているんですけど、学校の校区は、教育委員会が子供の通う距離とかで決めていくもんなんですけど、紀ノ光台地区のお住まいの方に、例えばですけど、スパンと割って、来年から隅田小、来年から城山小とかって、そういう考え方で進めるという気持ちはありません。やっぱり地元の方の、例えば、ごきょうだいの関係であったり、あるいはお友達の繋がりもすでにできている。こども園、幼稚園でできている世代もございますし、初産で初めて引っ越してきた方もいらっしゃるし、いろんな方が、特に紀ノ光台は若い世代の方が多くいて、いろんなパターンがあるんですよ。校区の設定はあるんですけども、例えば、親御さんが指定校変更という、親御さんの責任のもとで送り迎えするやり方とか、いろんなパターンがありますんで、いま 1 つの例として、1 年前に在学してる学校も大事なんということで示させてもらってるんですけど、進め方としましては、自治会の方のお話を聞かせてもらって、進めたいと考えています。決して、来年からこうです、そういう縦割りのような考え方はございませんので、また協議に乗っていただけたらありがたいです。校区につきましては、こういったことでご理解いただきたいと思います。

2-1. 境原小学校区に住んでいます。どうぞよろしくお願いします。先般の小学校での説明会も聞いて参ったんで、もう単純に、何でこんな年数が延びたのかなと思っています。資料の説明をいただいたんですけど、基本的には考え方は何ら変わらないということですよね。もう根本に戻るんですけど、私はもうなるべくというか、絶対残していただきたいと思っている 1 人です。境原小学校区、そんなことはできませんよって、これつらつら書いてあるんですけど、新しい学校づくり、橋本市さんで考えておられて、この統廃合なんてこれ全国皆同じ問題ですよ。もう本当に公務員の方が考えられる、私も元公務員なんですけど、考えるそのとおりがここに書かれてるだけでですね。何か新しい学校で、例えばその両校を使用する案ってなかったんですか、が 1 つです。もう 1 つ、この閉校の廃校の方の理由なんですけど、この危険区域が理由なんです。それをすいません、教えてください。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。まず 1 点目のですね、なぜ延びたかというところなんですけど、資料 19 ページにもあるんですけど、昨年説明会をさせてもらったときは、境原小学校の体育館の東側斜面の崩れてくるおそれの対策はしないということで、その危険を回避したいので城山小の方へ移っていただきたいという、その説明の趣旨で各校の説明に入らせてもらったんです。ですが、やっぱりいろんなご意見を賜りました。私たちも教育委員さんといろいろ考えて、一番の大きな理由は、橋本市が東側斜面の対策をするという方向に方針を転換したことです。これから現地調査、そこへ測量や設計に入りますので 2 年ほどかかる

と考えてるんですけど、まず対策をしないから、する方向で変わりましたので大幅にその危険回避という視点から年度の見直しがあります。そこがまず1点になります。両校を考えなかったのかっていうことに関しては、その視点はございませんでした。望ましい学校のクラス環境ということで、1学年2クラスを挙げさせてもらってるんですけど、それに近づける環境で学校運営をしたいということもありまして、分離型の方は考えていませんでした。その危険区域のことに関してなんですけども、確かに境原小学校の土砂災害の対策につきましては、東側斜面のハード対策に向けて、現地測量と設計の予算要求をしてるんです。現時点でどこまで安全を担保できるかということに関しましては、擁壁を設置して、一定の対策を講じられれば、児童数の推移から城山小学校と境原小学校の学校再編の目標を大幅にずらすということを考えたんですけど、北側の斜面の部分は、調査結果より岩盤の上に校舎が建っていますので、大雨のときに崩れる心配はないんですけど、北と東の特殊事情、やっぱりこういった県の危険ですよという網掛けが、2方向にあるというこの実情を考えたときに、ハード対策をしたとしても100%安全ですよと、私たちやっぱり言い切れないところがあったんです。その危険性は拭い切れないところがあったんで、学校再編そのものの方針は、これなら大丈夫という、そこはやっぱり慎重に考えるべきかと思ったんで、現在の方針であります。

2-2. ありがとうございます。ただ、それ言い出すと、もっと危ないところもたくさんありますよ、100%安全なところあります、ないですよ、この日本に。だから、やっぱりその対策をされるのであれば、この前は確かに対策はもうありませんという話で、市長さんも、こんな危ないところ早く出ないとあかんというような、何か発言があったというお話も聞いたんで、そこをずっと前面に出されると、私ら住民は、本当に何のためにここに学校作ったのか、もう根本に戻りますけど。これ橋本市さんが開発されたんでしょ。教育委員会さんも当然、了解をされてこの学校作ったわけですね、作ったあかんとこに作ってしまってるわけですね。ですから、それを考えると、私たち住民は、私は平成の頭の方に来させていたんですけど、やっぱり学校がここにあるというので来てるんですよ。子供たちも育てていただきましたし、本当に愛着も持っています。ですから、本当に予算要求も当然頑張っていていただいて、それは100%まではいきませんが、やっぱりある程度、危険が回避できるということがあるならば、両校をスクールバス出してですね、境原小の子たちを城山小に運べるのであれば、城山小の子たちまた反対に運ぶこともできるわけですよ。例えばの話ですけど、低学年だけとか高学年だけとか、両方を行き来してもいいわけですよ。だからそんなふうな何か新しいモデルであるとか、何か橋本市のモデルをもっと考えられてもいいんじゃないかなと思うんですけど、子供たちのためにもですよ。子供たちのためにも、そこに集めて人数を多くして、いろんな経験をさせるというのであれば、境原小の、やっぱり村の歴史であったり実績であったり、そういうようなところを、城山小の子たちに見てもらおうというのも十分意義のあることなんじゃないんかと思うんです。ですか

ら今更そんな話はできませんということなんかもわかりませんが、是非とも何かこの両校上手く使う、使い分ける、この廃校になった後もいろんな地域の方にいろいろご協力いただいて、みたいな話もあるんですけど、今まで橋本市内で廃校になって、そういうような地域活用、利活用されてるところってあるんでしょうか。

(教育委員会)

これまでに、高野口の方に信太小学校というのがございます。それも廃校になったんですけども、そこは文部科学省の廃校プロジェクトというのを使いまして、利用者を募集しましてキャンプ場をやっているような事情がございます。そういった利用で利活用している点もございます。

3-1. 小峰台に住んでおります。実は私、若い頃、紀見小学校で勤務いたしました。その前の年に堺市内の小学校で全校1学年6クラス、1学級45名のクラス指導させてもらってまして、それで、橋本市の紀見小学校に変わってきました。昔の紀見小学校です。そこは適正規模と言われてる1学年2クラス、1クラス35名でした。何とこの子供たちは幸せなんだろうと思ったんです。そのときは45名のクラスから変わってきたからです。担任させていただいて、若くて未熟だったからですけれども、全員に目を配って、1人ずつ大切にしたいという気持ちはありながらも、なかなか思うとおりできませんでした。それが私の後悔の種でした。橋本へ帰ってきたのは、その恩返しがしたいと思って帰ってきたんです。私の教え子はもうすぐ60歳になります。その人たちは社会で頑張ってくれています。でも、気持ちの上でその人たちに、全員に寄り添ってあげることができたのかしらと、今はその人たちの孫であり、子供さんであり、何かどこかで関わって恩返しができたらなと思って出会ったら声かけをしています。境原小学校は、現在1学年1学級ですが、子供たち一人一人に目配りができるなんて素晴らしいなと本当にそう思っております。それが統合されると聞いてショックでした。1学年2学級、2クラスが適正規模というのは、いつごろ文科省で決められたことなんでしょうか。それをお聞きしたいと思います。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。ちょっと明確に何年となると、1学年2クラスというより、学校で12から18クラスという幅を持たせた表記をされてました。それを、橋本市については小学校で1学級2クラスが望ましいとなっているんですけど、そういう幅を出した形です。文科省からは平成27年にガイドラインが示されています。

3-2. 中学生が1学年2学級、本当に素晴らしいなと思います。中学生ぐらいになると、子供たちは自分自身の考えをきちっと持って、友達にも対処できるようになっていると思います。小学生のころは、まだ幼稚園から上がってきたばかりの子供たちもいますし、6年生は中学生に近いんですけど、その子供たちはやっぱり1人ずつ手とり足とり、そばに寄り添ってあげて教育できるのが小学校なんじゃないかなと私は思います。子供たちの意見、

1人ずつ聞いてあげて境原小学校の子供たち、みんなきょうだいなのよと言ったら、もうその気になって、それぞれお互い大事にしてくれて中学校へ巣立っていつてくれています。私はもうここ10何年そばで見させてもらっています。本当に素晴らしいです。大人になっても、どこへ行っても、このきょうだいは、ずっと一緒なんだよと言って、子供たちに話して聞いてもらっています。そういう環境というのは、小学生時代は理想的な環境であると思うんです。だから、橋本市はそういう場がありますよと言って、全国に発信してもらいたいくらいです。そしたら、みな若い方も集まってきてくれるんじゃないかなと思います。

(教育長)

ありがとうございます。今のお話の中には2つの要素があると思っています。1つは、学校の規模が1学年2クラスというようなものと、それと1学級何人というような2つの要素があると思うんです。言われてるように、特に小学校の低学年であれば、丁寧な対応してあげないといけない、そんな時期はございます。ですからそのあたりは、担任というのは、1学級1人というのは原則ですけども、私自身は、低学年はできるだけ手厚くしてあげたいと思っています。学校に入ってから、習慣に慣れて、そしてしっかり1人で学んでいけるように、始めの段階でその丁寧さが必要だと思っていてそういった施策をとっています。これからにおいても、そのところは絶対に大事にしていきたいと思っています。あと複数のクラスあることについては、子供たちにとってもプラスになるところと、先生方にとってもプラスになる、そのところがあります。やっぱり先生の方が多い、複数で相談しながら指導方法など考えていくことができる、子供の情報を共有する、そういったことができることは、子供にとってのプラスになるからと思っています。今、橋本市、世代交代が進んできて、若い先生方も増えてきています。だから、これは別な問題と言われたらそうかも知れませんが、現実その状況の中で、やっぱり先生方の資質を向上ということも、しっかり取り組んでいかなければならないことだと思っています。ご指摘いただいたことについては、私としてはしっかりこれからもそこは取り組んでいきたいところであります。ありがとうございます。

3-3. ありがとうございます。先生方も少ないと今後、補充も担当増えますのでご苦労なことだと思います。ちゃんと子供たち中心で考えていただけたらと思います。よろしくお願いしたいと思います。

4-1. お疲れ様です。ちょっと自分の言いたいことをまとめてきたんで、しゃべりたいなと思ってんですけど、スクールバスの件だけ先に確認させて欲しいんですけど、小峰台に住んでいる子供たちは、私は廃校というのは反対してるんですけども、仮に廃校に強行された場合は、城山小学校にスクールバスでいけることになるんですか。ちょっとそれ最初に答えてくれますか。

(教育委員会)

スクールバスで行っていただけることを目指しています。

4-2. わかりました。先ほど女性の方もおっしゃっていましたが、やっぱり小規模校のすごいメリットがあるんだと思ってます。私も子供が2人いまして、境原幼稚園、それから境原小学校と行かせてもらいまして、非常に良い環境で、橋本市に感謝してます。子供は今も子供同士のつき合いもありますし、小規模校なんで、親同士も仲良くなれるんです。この歳になっても、その当時のお父さんお母さんたちといまだにおつき合いできるのは、やっぱりすごい小規模校のメリットと思ってます。やっぱり小規模校って、個別指導のそういう充実もありますし、学年を超えた交流、子供たちがいるときにドッジボール大会出たんですよ。普通の学校は、学年ごとに6年生が一番強いんですけども、数が足らなくて、6年生と5年生の混合チームだったんですけど、橋本市で優勝したんですね。そんな素晴らしい経験もさしてもらいました。やっぱり地域と密接な関係があったりだとか、教育環境の利点もありますし、柔軟にカリキュラムを見ることもメリットだと思います。あとやっぱり、達成感のところのコミュニケーション能力の向上があると思うんですよ。ドッジボールをするにしても、1学年でやらないんですね、2学年3学年でやるというところは、非常に素晴らしいと思ってます。あとやっぱり学校の先生もすごい負担が軽減されるんだろうなあとと思ってます。小学校は今、小規模、小クラスがトレンドになってて、むしろ境原小学校の規模の小学校が、時代から求められてるんじゃないかなと思ってます。先ほど女性の方もおっしゃってましたが、堺市で云々と言ってますけど、私もちょっと勤務先の関係で堺のことが詳しいんですけども、堺市内の小学校、今市内でほとんど学年1クラスですわ、でも廃校にはしてないですね。やっぱり地域とのこれまでの繋がりがあって、そこは効率だけ求めれば統廃合となるんでしょうけども、そこは強行はしてないです。やっぱり紀ノ光台の分譲があったりだとか、境原小学校の評判もあって、生徒数も橋本市として、唯一増加している小学校なんですね。その小学校を廃校にしようというところでは非常に疑問に思うところなんですけども、こういった数々のメリットがある中で、この統廃合によって個別具体的にどういうメリットが逆にあるんだなっていうのをまずちょっと聞きしたいなと思います。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。例えばですけど、一定の規模を持たすことによって少人数では限られる、グループ学習であったり、ペア学習だったり、一斉学習というところで、事業スタイルが先生の手腕にもよるんですけど、ここが多様な考え方ができます。一つの例をあげさせていただくと、8人のクラスで4人のグループで授業を展開して、グループ発表すると2組になりますけど、これ12人いたら3組にできるわけですよ。そうなったときに、2組目、3組目の話し合ったことを1組目が聞けたりして、やはりいろんな考え方を子供たちが授業の中で展開できて、自分と同感する考え、異なる考え、1つの例ですけども、子供

たちがそういう考え方に触れるという点があります。また、2クラスということになりますと、競い合いといいますか張り合いも出てくると思いますし、先生方も、例えば、授業の進捗、カリキュラムの進捗であっても相談できたり、クラス対抗ができたり、いろんなことが一定の規模を確保することによってプラスになる、できるものがあるとあげさせていただきます。1つの例としてです。

4-3. わかりました。それはあまりメリットにはちょっと思えないんですけども、内容はわかりました。ちょっと学校の方から離れるんですけども、やっぱり地域コミュニティの衰退であったりだとか、まちづくりの観点のところが欠落してるかなと私は思ってます。林間田園都市に住宅開発と橋本市が主導して、開発業者とともに進めてきたと思ってます。市はやっぱり都市計画や土地区画整理事業の認可であったりだとか、インフラの整備を担ってきました。これら計画に基づいて、小峰台の1丁目に境原小学校が必要と計画して整備されたものです。先ほどの男性の方もおっしゃってましたけども、未来のお住まいの方の多くの方は、住宅地に小学校があるということを魅力に感じて引っ越してくれると思ってます。ところが市の考え方は、橋本市で唯一生徒数が増加する境原小学校を、正当な理由を示すことなく、廃校に向けて手続きを進めようとされてると私は感じてます。やっぱり大規模な住宅地というのは偏りのある世代が一斉に入居するんです。これはもう橋本市だけじゃないです。全国共通の課題です。入ってくる当初は子供がちょうど小学生ぐらいの世代が多く占めて、こういう住宅地で少しずつ新しい住民を呼び込んで世代更新を繰り返していかないと、良好な住宅環境にはならないんです。開発して売ってしまったら終わりじゃないんですよ、やっぱりこれから10年20年30年と続く、世代更新に対応するために、子育て世代が住み帰るときに一番必要と考える歩いて通える小学校というのがやっぱり大事だと思ってます。ちょうど小峰台は、入れ替わりの時期にさし変わりつつあります。正直お亡くなりなられた方もおったりとかして、そこにまた新しい住民の方が住み始めたりしてるところもあります。これもやっぱり小規模校で評判の良い小学校があるからなんだろうと思ってます。そういった重要な役割を果たしてるんですが、それを市が廃校にしてみると、住宅地のやっぱり円滑な世代更新を市がみずから断ち切っているんじゃないかなと思ってます。あと、市もいろいろ活性化とか財源とかって載ってますけども、住宅開発に伴うインフラ整備に巨額を投資してますよね。この多くの方が住む住宅地であっても、小学校が仮に廃校になって、空き家が大半を占めるような住宅地になろうとも、今問題になっている上下水のインフラであったりだとか、道路、公園などは維持していかないと駄目なんですよ。まだ小峰台は2丁目とか、紀ノ光台は低未利用地がいっぱい存在してますよね。太陽光パネルを置いてるのをご存じかと思いますけれども、こういった未利用地も、将来の橋本市の種地になるような大切な土地なんだろうと思うんです。そこを近視眼的な財政の観点だけで、まだまだ使える小学校を廃校にするのは、財政的な観点からもマイナスじゃないかと思ってます。今現役世代を呼び込むという政策をいろいろやってるのは、市の広報とか見

てわかってますけども、その一方で、小学校廃校していく。こんな噂はすぐに広がりますし、市が今やってる施策と真逆の施策をやっていると言われてることは指摘しておきたいと思ってます。あと、紀ノ光台の校区変更、境原小学校どうなっていくんだってところに非常に大きく左右してるんだと僕は感じています。小峰台の住民なんですけど、紀ノ光台の住民じゃないので、そこはちょっとよくわからないところもありますけども、境原小学校と紀ノ光台と、まだ太陽光パネルを置いてるようなところ等もひっくるめて、今だけじゃなくって、30年40年50年先にどうなってるんかというところをしっかりと視野に入れて、校区をどうあるべきかを考えていかないとあかんと思ってます。そこはちょっとしっかりと考えてもらいたいなと思ってます。最後に土砂災害の云々というところは、ちょっと本当にそれが統廃合の理由じゃないですよ。それは付け足しで言うてるだけですか。お答えいただいていいですか。

(教育委員会)

先ほど申し上げましたように、特殊の2箇所の危険エリアが備わっているということで、付け足しではございません。先ほどの方がおっしゃっていただいた危険な箇所のところに学校を建てたというお話があったんですけど、これは正直申し上げますと、当時の境原小学校が建てる時は、この土砂災害警戒区域のライン引きというのはなく、広島県で大雨が降って、広島市の安佐南区で大規模な土砂崩れがあったじゃないですか、あれを受けて全国でこうやって危険な箇所を調べなさいと言って国が通達を出して、都道府県、こういう角度とかですね高さとかを調べて網掛けをしたわけでございまして、そういったのが、境原小学校に2方向あるということです。これは、わかって建てたというのでは違いますのでご了承くださいと思います。

4-4. 橋本市内に、そういう土砂災害の警戒区域に入っている小学校は、ここだけですか。

(教育委員会)

小中学校で申し上げますと4校ですね、学校エリアに網かかってます。西部小学校と高野口中学校と紀見北中学校でございます。

4-5. そこは廃校になるんですか。

(教育委員会)

そこは今回の基本方針の学校再編の方針には載せていません。

4-6. その理由は。

(教育委員会)

それは対策を講じているからです。こういう網掛けがかかっているところに関しては、各学校なりに対策を講じる、一部予定もあるんですけども、そういった方針です。

4－7. 境原小学校の体育館のところは、今回対策講じるというお話ですよ。北側のところは盛土じゃないですよ。切土なんですよ。ここ平らになっているのは、皆よくご存じで、ただ急傾斜地になっている事実だけをとらえて、廃校するための理由に使ってるんですよ。だからね、統廃合が絶対まかりならんとかじゃなく、もう統廃合の話にこの土砂災害の区域入ってることを持ち出すことは、それはちょっとずるいやり方ですわ、切り離してやらないと。これをのけてでも廃校にしなければならない理由があるのであれば、ちゃんと文章にして説明しないとごまかしになってしまうんですよ。橋本市内をハザードマップ見たら真っ白のところにほとんどないですよ。元橋本小学校は幸いにも真っ白ですわ。ハザードマップ上、危険がない。ただ、橋本小学校が新しい橋本小学校で中学校の方にいったじゃないですか。あそこは紀の川が浸水のときに5mから10mの浸水区域ですよ。あなたたちそういうところに平気に学校を移動させるんですよ都合で。ここだけこういう情報を切り取って、おっしゃる。そこはちょっと統廃合が必ず必要と言うんやったら、この問題は別にして、ちゃんとした理由を述べてもらわないといけないと思います。ここ大きな問題なんで、やっぱりいろんな隠し事なく情報をオープンにして、前も言いましたけど教育委員会の人だけにこれを詰めるのは酷な話なんで、最後はちゃんと話できたところで、ちゃんと市長さんにも出てきていただいて、きっちりと、もう双方あれがないように決着をしないといけないと思っています。

5. たびたびすいません。今、お話をお伺いして事実そうです。私、橋本小学校出身です。小学校時代に伊勢湾台風で奈良県のダム放流しました。それで橋本のまちは大水害です。私の家は、天井から30センチのところまで水につかりました。その時、今の橋本小学校、橋本中学校があるところも水害で浸水しておりました。どうしてまたそっちに行くんだらうと私もちょっと疑問に思ったものでした。堤防だとか、ちゃんとそういうふうに確実に、水害が来ても大丈夫なように工事してくださったからとは思いますが、高野口中学校も下にあったのを、あんな上に持ってあがってと思ってて、今もう、地域の皆さんが大反対しているそうですけど。よく考えてしてあげて欲しいなと、一市民としてそう思います。

6－1. 統廃合を応援するために言ってるわけではないんですが、私は13年間、毎朝、登下校の見守りをしています。そこでなんですが、先ほど先生の方が1クラスの子供がかわいく育ってきたと、それはその通りでしょう。その子供も居心地がよかったです。ただ、城山小学校は2クラスです。特に今まで13年間やっててね、いつまでも毎朝下を向いて学校行くのがつらそうな子が、クラス変更があつて元気になるというようなこともあるんですよ。1クラスではね、6年生まで下向いておる子供が。私は学校の先生でもなんでもないですが、毎朝子供の元気かなと見てる。日々の生活の中から、急に元気になると、何でやと聞いてみると、いやクラス変更があつて、というようなことを言ってる子供は何人もおるということ。実態を私自身経験してますので、そういう子供を中心であるならば、そう

いうことも考えてやるべきではないかなと。皆さん検討すべきではないかなとそうように思いました。

質問なんですが、今回、後ろ倒しになったんですけど日程が、先ほどの災害のマップがあったと思うんです。土砂災害委託調査結果、北側はこう、東側はこうという工事をすればOKという会社はどこ会社なんですか、それだけちょっと教えていただきたいなと。

(教育委員会)

調査した会社は、国際航業という会社です。

6－2. この実績に対して、ある程度責任がとれるところなんですか。北側のある校舎には問題なかろうという結論を出したのがこの会社ですよ。それを受けて、こういう方針になったと思うんですが、そこら辺のその会社との契約上からいって、どれぐらいの雨に対して、問題ないというようなどころまで出されたんでしょうか。

(教育委員会)

校舎におきましては、この現地の状況を実際に調査し、過去の航空写真であるとか、そういったものも参考にどういった地形であるかとかっていうのを見てここに書いてありますような調査結果が出てきたという形になります。想定雨量ということではなく、現状の地形を実際に見て、どういったものであるかというのを調査した結果で、こういった判断がされているということになります。

(教育長)

ちょっと補足させていただきますと、全国規模のコンサルタント会社の技術者さんがいて、いろんなそういう測量であったり、現地のなんていうんすかね、いわゆる、それなりの精通した方を担当につけてもらって見解を出していただいています。そういう規模の調査会社ですので、私たちとしては信頼して報告になったという形になります。

7－1. お疲れ様です。この統廃合でね、どんな学校にしたいのかっていうところに、小さな枠で子供たちに必要な社会を生き抜く力、また、資料10ページのすべての小・中学校がより良い学校への中身見たらね、当たり前の話ちゃうかなと思うんですけども、これができてないという話なんですか。

(教育長)

今できてないとか、そういうことはありません。現状においても、規模の大きいところもあれば、小さい規模の学校があります。少し具体的に言うと、1つの学年が数名といった学校もあったりします。けれども、そこに所属している先生方は、子供にとって今求められる力は、そこに説明しているとおりですけれども、こういう力がつくように、できる限りの範囲の中で、教育活動をしていただいているんで、教育委員会としてもそのサポートしてるのが現状です。けれども、人数1人とか2人とかという極端な話していますけれども、こんなふうになると、やっぱりできる学びのスタイルには限界があるんですよ。だから、

そこを改善していく必要があるということで考えていただけたらと思います。

7-2. ありがとうございます。先ほどの土砂警戒区域の件で、部長から広島でそういった土砂災害があったということで聞かせていただいたんですけど、元々、運送業していて、大雨のときに広島で土砂災害に巻き込まれて、大型車のトラックが埋まるまで土砂が来て、自衛隊を要請してドライバーを救出して欲しいということがありました。でも返ってきたトラックを見たら、真砂土というんですかね、運動場にひいてあるような、ああいった土がトラックのあちこちについてる。地盤がもう全く違うんですよね、こちらと。先ほどからの方もちょっとお話いただきましたけども、こちら辺は僕、小さい時から遊んでたところなんで、こちら辺は切土なんです。だから、すぐにどうこうなることはないと思うんですけど、それやったら前にも言うたみたいに一度ボーリング調査して、ほんまにこれが危険な場所なのか誰かが見てここが危ないと寸法と高さ測って、ここは土砂災害警戒区域になるかもわからんという話でされとるけども、そんなんじゃなしに、ちゃんと調査して、ほんまにあかんからあきませんでしたという結果を出すべきじゃないかと。それが理由であれば思うんですけども、いかがでしょうか。

(教育委員会)

ありがとうございます。先ほど申しましたけども、そういう予算を来年度で教育委員会から予算を要求しまして、現地の測量、設計に入らしてもらいたいと思ってます。実際、土砂がどれぐらいの斜面に何センチあるかというのは、ボーリングしなければわかりませんので、そういったのも含めて擁壁のグレードとかいろいろ考えていきたいと思っています。

7-3. そしたら、土砂災害警戒区域になってますけども、結果よかったらどうなるんですか。北側斜面です。

(教育委員会)

あくまで東側斜面になるんですけど、北側斜面はいたしません。あくまで東側だけでございます。崩れてくる方の危険性ということで、東側を考えております。

7-4. 東側は大体ある程度、今回対策していただけるんで、危険性はちょっとマシになると思うんですけどね。だからそれも含めて延期してるわけだというふうに理解しとんやけど。それやったら北側もボーリング調査して、土砂で崩れるかもわからんと言うんやったら、そういった調査するべきじゃないんかな。

(教育委員会)

大雨につきましては、一定の距離が離れているというのもありまして、その可能性は低いというのがこのコンサル会社からの報告でありました。ただ、未曾有の大地震とは別ですけど、大雨につきましては、その北側については、東側のように大きな危険性はないだろうというところで今回東側に集中させてもらいたいと思っています。

7-5. いや、それを理由にせんといて欲しいと、地元の人間からしたら思うんですよ。それから、それを理由に学校をなくすという、子供まで交えてるわけじゃないですか。先ほど、他の方も質問されてましたけども、他の学校どこあるんやということで、もっと危険な箇所、あんまり橋本小・中学校のこと言ったら怒られますけども、もし大洪水でも来たら境原小以上に危険性があるんじゃないかと思うんやけども。そんな面も含めて1回もつと残す方向と言ったらいいか。いずれは、それこそ恋野小学校みたいに生徒さんが1人とかなったとしても、やっぱり地元からどないかして欲しいという、そういう要請や要望があつてこそ、こういったことはうまく進んでいくと、行政と市民側でもうまく進んでいくと思うんやけども。こないだからもこれ延ばしてもらったけども、その延ばしてくれたらありがたいですよ。ありがたいけど、そんな考え方しかしてなかったのかと、こっちはやっぱり思いますよ。もうほんまに真剣に考えとつたら、もともと1年生から6年生まで卒業させるのが普通の話ですやんか。1年生入学した子が3年生だよな、学校変わるよとなつたら、それこそ、それおかしいと思うんやけど、やっぱ市民さんからは、いろんな声を聞かせてもらいますよ。ほんまに市は真剣に考えてるんかと。子供のこと考えてる、こんなこと考えてると言うてるけど、ほんまに考えてくれたのかと。それやつたら最初からすべきちゃうかというお叱り受けました。そこら辺も含めてどうですか。

(教育委員会)

そういうふうにとらえられたら、私どもの説明不足で、そういうところを反省するんですけど、やっぱり学校の先生の協力もあつて、地元の方の協力もあつて、学校はできているもんなんで、教育委員会の事務局だけでできないことなんですけど、やはり、1回目の説明会で、10年間で21%子供が減ってるという実情で、これで何も橋本市が手を打たなかったら、もっとこれ減っていて、減ってからでは絶対遅いんですよ。だから、一定の規模ということも含めて、この適正規模・適正配置の基本方針を出させてもらっているんです。出させていただかないと議論できないじゃないですか、今回7年も先になるので、今の年中の児童さんが入るときに直接関わってきて、在校生は全員卒業した形になってしまうんですけど、7年延ばしたとはいえ、一定の方針を教育委員会を出しておかないと、やっぱり、これは不動産のこともありますし、若い方のこともありますし、こういう子供の数が急激に減っている実情を市内全体で中学校区で考えていくというところをご理解いただきたいと思います。

8-1. 僕も境原小学校にいて、僕のころは複式学級でした。遊ぶとしても6年生から1年生まで全員集めてやらなかったら、野球とかソフトボールできなかったというたら、それ恥ずかしいことかと言うたら、逆に今大きくなって、歳6つ、7つ上の人でも気軽に話できる雰囲気というのがあります。そして娘らが小学校行ってる時、教頭先生、一人一人名前前で言っていました。事件とかあったときに、こんないい子やったという校長とかのコメント聞いたとき、マンモス校で本当にそこまで把握してんのかなというのがあります。境原小学校へ行ったら、先生も一人一人いろいろ見てくれてるんだなと。来年から孫が境小学

校に行きます。地元から1人だけですけども、家の前の小学校行くと行って、ランドセルも準備して、楽しみにしているというところあります。この話出て市としてというか、教育委員会は学校なくして縮小していったるのかなあ、市がやってるのかなという、僕らから言うたら、目の前にいてる人は教育の方で、明日からこの小学校廃止しますという権限持たされてないと思うんです。その権限持たされている人が、説明するのが当たり前のことかなと思います。この縮小するのに、いろいろ話聞いてる中で、橋本市の先生が少ないから、少子化だけ言ってるんで、先生も少なくても対応ができないのか、そういうようなところも言うて欲しいと思います。十分先生いてるんやったら、統合する必要もないと思うんでね。後は市の財政とかそういうところもあるんでしょうけれども、もっとそういう広い観点から、いろんな視点から説明して欲しいと思います。

(教育委員会)

ありがとうございます。まず今日、2回目説明会をさせてもらっている内容は、適正規模・適正配置の基本方針の変更案をさせてもらってんですけど、教育委員会が、先を見越して学校再編という形でさせてもらっております。最終的には学校を設置するかは市長になってくるんですけど、まず今、学校再編のことに関しては、教育委員会の方で方針を出させてもらっています。

8-2. ということは、市からは、その予算とかで、もっとしぼれとか、そういうことを言うてるわけではないんですか。小学校を維持するのにお金がかかるからのその費用を減らせとか。

(教育長)

そういうことではございません。先ほどからの説明にもあったように、どういう学校にしていきたい、今の子供たちの現状はどうだ、その辺りから教育委員会としての方針を説明させてもらってるところです。そして、1回目のときについても、まだその方針については、確定したものではない。今も変更案という形で説明をしています。またご意見をいただく中で、最終教育委員会としての基本方針というのを作った上で、そのあと、計画に繋がっていきますという説明をしていたんですけども、その計画にはなる段階で、市としての計画になっていきます。その時の説明は、多分同じようなメンバーになるかと思うんですけども、また市からも、それはやっぱり必要になってくるかなと思っています。最終これが決定するのは、議会に条例が出されたとき、学校の名前が変わるだとか、そういう条例が変わるときに、市議会の場で最終決定というのが手順となっておるところです。

それと、先生の数の話ありましたけれども、橋本市立の学校に仕事していただいている先生というのは、少しちょっとややこしいんですけども、任命権者というのは和歌山県教育委員会です。そこで橋本市のこの学校に勤めなさいということで配置されています。そして、その管理監督は、橋本市教育委員会が行っています。人数については、県の方で足りるように配置基準というのがありまして、それに基づいて配置されています。世間では先生のな

り手が少ないというようなことで、なかなか定数に達してないというようなニュースもありますが、橋本市においては、年度当初において人数が欠けたということはございません。ただ、年度途中で、赤ちゃんをお産みになられたり、病気になったりで、補充として入ってもらう先生は、すぐに見つからないというようなところは時々ございます。けれども、定数の中で年度当初については、きちっと県の方から配置をいただいているところです。

9-1. 北側の校舎の下が通学路で、ずっと上の子が今23の歳ですね、ずっと一緒に上がってます。今も上がってます。近所の方に、こんな話が出たとき、説明会には来ていない方です。行っていいんか、ここ危ないだろうと朝から言われました。とても迷惑です。言われても何も答えられません。ちゃんと地域の方に、説明会に来ない方にもきちんと説明していただけないでしょうか。もう1つ、その間ずっと行ってる間、私の知ってる限り、私が何回かこの道、水が出て凍るのでここ通行をどうかしてください、水をほってもらいました。何回かしてもらいました、それが数回。この4月には、ちょっと道のところ穴が空いてるから、そこちゃんとしてというのをお願いして、無理やり4月に1年生が入るまでにお願いしました。それは私がお願いしてやってもらったものです。そして、1回だけ大阪の地震があったとき、あのときはブロック塀が崩れたので、ブロック塀を全部点検しますとして通学路きてくれました。その1回だけ私は通学路を見に来てくれたの知ってるんですが、この話が出た後とかは、市役所の方は見に来てくれてるんですかね。この崩れるって言われてる紫の部分歩いてるんです。地域の方に行っていいんかと言われてるんです。ご説明お願いします。そしてもう1点、次男は、ものすごい自己肯定感が低かったんです。人見知りもものすごかったです。幼稚園のとき、5月かな、お友達が増えました。その時点で幼稚園通えなくなりました。毎日抱えて、1時間ぐらい幼稚園の様子を見て帰るのを何か月も続けました。今その子は、小学校で皆さんに育ててもらって、先生方もそうだし保護者の方にも育ててもらって、お友達にも育ててもらって、高校の太鼓部で全国大会に出ていろんなどこに出ています。人前に出れてます。そういう子がいるんですよ。多い人数のところで生きられない子がいるんです。おそらくこの子は多い人数のところだったら、不登校になるでしょうまで言われました。でも卒業できたし、人前に立てるんです。そういう子いることをわかって欲しいです。お願いします。

(教育委員会)

まず最初に学校の通学路、下のところなんですけども、これ警戒区域にはなっているところなんですけども、大雨であつたり、大きな地震であつたりというときに危険性がある、というような形の指定になっています。現場の方は、各担当で歩いたりして、適宜見に行かせていただいているようなこともありますので、全く行けてないというわけではございません。

9-2. この間、この1年でも大雨がすごいのが2回ほどありましたが、あの時は見にき

てくれましたか。あの説明会があった後ですよ。ものすごい通学路だったんですよ。川どころではなかったんですよ。滝かなと思うぐらいだったんです。見にきてくれましたか、これだけ話してるのに。

(教育委員会)

すいません、その時は見に行けておりません。申し訳ございませんでした。

9-3. おかしい。子供たちが通学するんだけど、下から行ったら上の状況なんてわからないけど、そこを通すんですよ子供たちを。それ一般市民に任せるんですか。それおかしいですか。

(教育委員会)

実際、現場を見てないんで、ちょっと申し上げにくいんですけども、学校の先生とのやりとりも含めて、そういったところの危険性であったり、状況というのは把握するように努めています。

10-1. 時間も経ってるんで短くいきますけど、1つは署名のお話をされました。境原小学校区の署名なんですけど、特に全体に回ったわけではなく、本当に市民の有志の方が、夏祭りとかいろいろそんなところでされています。境原小学校区の人口2,129人の3分の4に相当する1570筆が提出されたとなってるんですけど、これ、教育長さんは、民意として大切にとらえなければならないというご答弁をされたと聞いたんですけど、本当にちゃんと集めるのであれば、この住民さんの倍ぐらい集まるんじゃないかなと。もう卒業生も含めて、大阪や他府県に出て行ってる人達も含めて、そんなことで民意をしっかりとっていただけるならば、また改めてその署名運動もさせていただきたいなと思うんですけど、それは本当に大事にさせていただけるのかなというのが1つ。あと、こんなチラシご存じですか。2月22日に「これでいいの、話し合おう、学校統廃合のこと」で何か集まりがあるんですよ。私の小学校がなくなるって？実行委員会とはどんな団体なんでしょうか。教えてください。

(教育長)

私自身その方々と直接話はしていないので、どんな団体ということはお答えできませんが、どういう方々がそれを計画されてるかということは、個人的には知っています。その団体がどういう趣旨で、その会をするかというあたりについては話をしてませんし、直接聞いていないので、ちょっと無責任なことはちょっと言いにくいです。

10-2. どんな方かって、学校の先生ですよこれ大体皆さん、元じゃないんですか。じゃあどういう情報なんですか。全くわからない。

(教育長)

元先生もいますし、元公務員もいます。全員の方々は存じ上げません。

10-3. こういうのは気にならないんですか、教育委員会として、こういう団体がこういう活動してるのは何も知らない、それで責任者としてはいいんですか。

(教育長)

実はいつ頃だったかな、この会自身は2回目かなと思います。以前にも1回実施し、大学の先生をお呼びされて講演会をされたこともございます。その中身については、うちも出席をして中身どうだったかっていうあたりのことについては、情報収集はしておるところです。

10-4. それを踏まえてどういう団体なんですか。団体というかどうかという趣旨でやっておられますか。反対なんですかこの方々。

(教育長)

そうです。

10-5. この学校統廃合に対して反対。これ一般市民も入れるわけですか、ここに入れる。あと、この署名活動についてはどうなのでしょう。それは私らが勝手にやったらええということですか。

(教育委員会)

なかなかその署名活動に関して、私どもは申し上げにくいところがあります。この1578筆の署名自体もですね、すごい数を承っておるわけなんです。ですから、さらにとか、改めてとかという話をなかなか私らとしたらお答えできません。こんな大事なことは慎重に扱う気持ちでおりますので、そういう再度という話はとてもお答えできません。

10-6. そしたら先ほど後ろの男性も私も言いましたけど、この統廃合の話とね、災害対策は別なんじゃないですか。これ延ばしていただいてるんですけど、延ばしているけども、対策をするけど、再編はもう決まってるんでしょう。いやだからおかしいんじゃないですか。先ほど課長さんがおっしゃったように、いろんな対策をするために予算要求をして来年度やるわけじゃないですか。だから、対策をして危険性をなくすためにやるんじゃないの、ただ単に形だけやるんじゃないんでしょう。

(教育委員会)

それは当然、東側斜面の危険性を抑えるために、悪天候のときは学校運営はしませんけども、そういうのも含めて予算要求していきます。

10-7. それをこの結果を踏まえて、再検討するんじゃないんですか。

(教育委員会)

確かにそうなんですけど、危険性をぬぐえないというところが。

10-8. だから、やってみないとわからないんじゃないですか。

(教育委員会)

でも災害は、いつ起こるか、いつどんな規模で起こるかもわからない中で、複数の箇所網掛けされている中で、片方やったからじゃあ大丈夫でしょうとは教育委員会としてそこまでは。

10-9. いや、だからそれは教育委員会は別に責任求めているわけじゃなくて、危機管理であったり、土木であったり、その専門の方は当然されるわけでしょう。その評価を見てから、再度検討するでいいんじゃないんですか。再編方針を変更しない、今の段階からそれ言い切っているんですか。

(教育委員会)

あくまで基本方針としてとらえていただきたいと思います。こういう方針を教育委員会が持っている、橋本市が計画として位置付けは、次の話になります。我々が計画を定めたことをここで話しているわけではなく、教育委員会としてこういう再編の方針をご理解いただきたいというものでお話しさせてもらっています。

10-10. そしたら、次の学校の説明会のときには、そういうふうにご説明いただけませんか。ここは、今の説明で結構ですので、それは次があるんですよね、これ、学校での説明会あるんでしょう。

(教育委員会)

保護者さんには先週させてもらったんです。次の説明となりますと、ちょっとまだこれ先のことなんですけど、市の計画が決定したときは、また改めてさせていただく予定ではあるんですけども、保護者さんには先週させていただきました。

10-11. もう小峰台全体の住民説明会ではないんですか。

(教育委員会)

はい、この紀見東中学校区の説明会でというふうにさせてもらっています。

説明会に出席していただいた地域の皆様から意見書に記入いただいた意見、並びに欠席された方から提出いただいた意見の内容です。

1 1. (二次元コード)

城山台地区の次年度自治会役員候補のため今回はじめて参加しました。これまでは境原小学校敷地が土砂災害警戒区域に指定され、安全上の課題から統合されると理解していました。しかし本日の説明から統合の本質は、少子化による教育のための適正規模維持による豊かな学びの場の再編統合との説明でした。適正規模を推進する上で大事なことは、学級数維持が困難な状況になってからではなく、今後の児童数、生徒数の推移を正確に予測して学級数維持が可能な計画を事前に立案することかと思います（当たり前ですが橋本市各部署あげて想定）。これは民間企業の経営計画や営業計画と同じです。資料 17 に記載の紀見東中学校区の児童数、クラス数の推移があります。令和 12 年には境原、城山の児童数は拮抗しており令和 14 年には逆転の可能性もある数値です。紀ノ光台の人口増加が見込めるのであれば、むしろ境原小学校に城山小学校が再編統合することも案として考えられます（ここに土砂災害の件は考慮していません）。土砂災害と学級数維持の両面あることが、統合問題を複雑にしていることは否めません。学級数維持のための再編統合するのであれば城山台地区、小峰台地区の価値の維持、上昇が可能な魅力のある新しい学校像の構築案や廃校跡地の人々が集まる集客装置案など画期的な計画とセットにする必要があります。単なる統廃合を進めるだけでは住民の理解を得るのは難しいと思います。小学校の統廃合は全国的な問題ですので、他府県や諸外国の取組みや成功事例を資金を投入して調査することや、市民や地域の方々から意見や取組を募集するなど（景品や賞金をつける等も一考）広く対外的に周知して取組むことが大切だと思います。新しい取組みにチャレンジすることは困難を伴いますが、辛い時間はありますのでじつくりと、しかしスピード感を持って、橋本市独自の再編統合の新しい学校の実現や魅力ある廃校跡地活用ができれば評判となり、転出超過を上回る転入促進になり結果的に人口減少対策にもなります。教育委員会及び橋本市からの対外的発信をもっと強化して取り組むべきだと思います。